2027年3月期 第2四半期
決算短信補足資料

2026年11月4日

証券コード:4886

あすか製薬ホールディングス株式会社

ハイライト

2027年3月期 第2四半期 連結

売上高	✓ 356億円、前同比1.1%増加 国内医療用医薬品事業およびアニマルヘルス事業が堅調に推移し増収
売上原価	✓ 188億円、売上原価率 前同比1.0ポイント増加 仕入品および原材料価格の上昇等により増加
販売費及び一般管理費	✓ 140億円、売上高販管費率 前同比1.2ポイント改善 研究開発費は増加した一方、運送保管料等その他費用の削減により、販管費率が改善
営業利益	✓ 27億円、前同比3.5%増加

2027年3月期 連結

※変更はありません

業績予想	✓ 売上高　730億円、前同比2.6%増加 ✓ 営業利益　62億円、前同比6.3%増加

損益計算書(連結)

単位:百万円	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	35,253	35,626	373	1.1%
営業利益	2,648	2,740	92	3.5%
経常利益	2,638	2,862	224	8.5%
親会社株主に帰属する 中間純利益	2,219	2,006	△ 213	△ 9.6%

- ✓ 売上高は、国内医療用医薬品事業およびアニマルヘルス事業の堅調な推移により、増収となった。
- ✓ 営業利益および経常利益は、売上高原価率の上昇や研究開発費の増加があったものの、運送保管料等その他費用の削減等により、増益となった。
- ✓ 親会社株式に帰属する中間純利益は、法人税等調整額の増加等により、前同比9.6%減となった。

セグメント業績(連結)

単位:百万円

		2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期	売上構成比	増減額	増減率
国内医療用医薬品事業	売上	29,255	29,615	83.1%	360	1.2%
	損益	3,119	3,297	–	177	5.7%
アニマルヘルス事業	売上	3,765	4,125	11.6%	360	9.6%
	損益	282	276	–	△ 6	△ 2.2%
海外事業	売上	2,133	1,798	5.0%	△ 335	△ 15.7%
	損益	131	53	–	△ 78	△ 59.6%
その他事業 (臨床検査、医療機器等)	売上	99	87	0.2%	△ 11	△ 12.0%
	損益	△ 15	△ 2	–	13	–
売上合計		35,253	35,626	100.0%	373	1.1%

- ✓ 国内医療用医薬品事業では、産婦人科製品「ドロエチ」が減少したものの、「スリンダ」、「レルミナ」が伸長したほか、内科製品「チラーヂン」、「リフキシマ」、泌尿器科製品「リュープロレリン」も堅調に推移し、増収となった。
- ✓ アニマルヘルス事業は、飼料添加物が好調に推移し、売上高は前同比9.6%増となった。
- ✓ 海外事業は、主力製品の原薬調達難等の影響により、減収減益となった。

主要製品売上高(医療用医薬品事業)

単位:百万円

領域	区分	製品	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期		2027年3月期		ご参考	特記事項
			実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)	期初計画	
内科	先発品	甲状腺ホルモン製剤 チラーヂン	4,306	4,554	5.7%	9,082	3.5%	9,082	薬価上昇、数量増加
	先発品	難吸収性リファマイシン系抗菌薬 リフキシマ	3,880	4,163	7.3%	8,023	1.8%	8,023	薬価維持、想定以上に数量増加、本年10月のガイドライン改訂による処方機会増に期待
	AG	高血圧治療剤 カンデサルタン類 ※1	4,026	3,597	△ 10.7%	7,213	△ 8.5%	7,213	薬価ダウン、数量ほぼ維持
	先発品	抗甲状腺剤 メルカゾール	825	881	6.9%	1,745	5.5%	1,745	薬価上昇、数量ほぼ維持
産婦人科	先発品	子宮筋腫・子宮内膜症治療剤 レルミナ	5,692	5,838	2.6%	11,340	1.5%	11,340	薬価ダウン、数量増加、本年4月のガイドライン改訂による処方機会増に期待
	GE	月経困難症治療剤 ドロエチ	4,109	3,854	△ 6.2%	7,678	△ 7.6%	7,678	薬価ダウン、数量増加 本年8月にフレックス製剤の承認取得
	AG	月経困難症治療剤 フリウェル	1,509	1,287	△ 14.7%	2,586	△ 13.0%	2,586	薬価ダウン、数量減少
	先発品	黄体ホルモン製剤 ルテウム	1,095	1,177	7.5%	2,197	△ 3.2%	2,197	薬価維持、想定以上に数量増加
	先発品	経口避妊剤 スリンダ	119	549	358.1%	1,019	159.9%	1,019	薬価未収載(避妊薬)、想定通りに数量増加
泌尿器科	GE	LH-RH誘導体マイクロカプセル徐放性剤 リュープロレリン ※2	1,908	2,222	16.5%	5,096	31.3%	5,596	薬価ダウン SR製剤の先発品からの切替活動に注力

※1 配合剤を含む　※2 1.88mg製剤は産婦人科適応のみだが、3.75mg製剤とSR製剤(11.25mg、2025年12月発売)との合算値

主要事業分野別売上高(アニマルヘルス事業)

単位:百万円

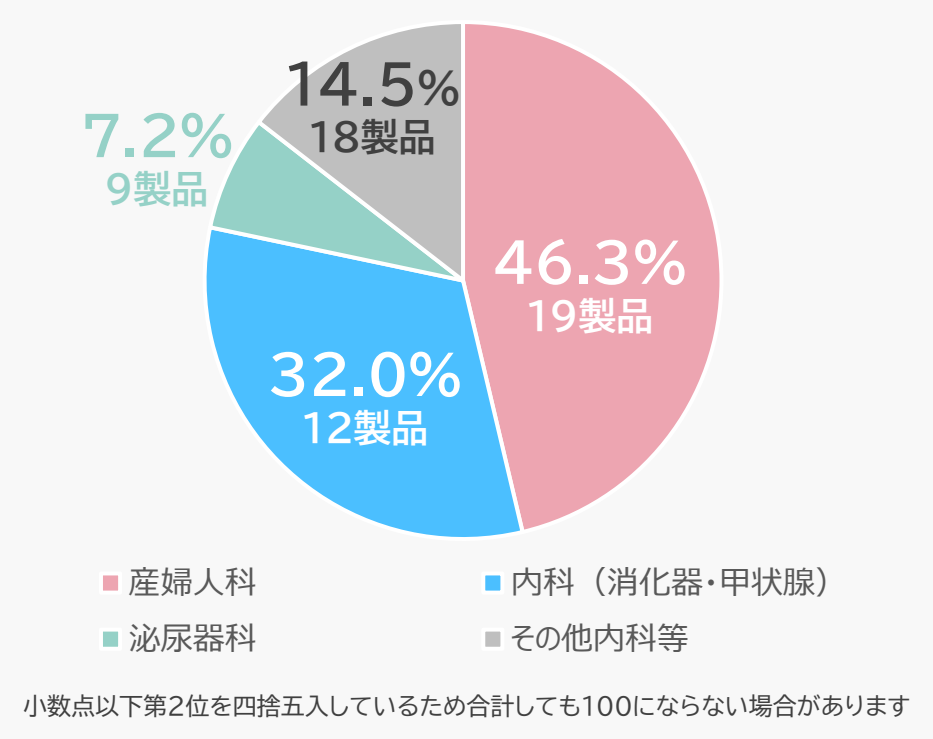
事業分野	2026年3月期 第2四半期	2027年3月期 第2四半期		2027年3月期	
	実績	実績	前同比(%)	見込	前同比(%)
飼料添加物 混合飼料 飼料原料	2,249	2,739	21.8%	5,069	12.3%
動物用医薬品 (畜水産+CA※)	1,371	1,336	△ 2.5%	2,727	3.3%

- ✓ 動物用医薬品はCA用医薬品が好調だったものの、畜水産用医薬品減収の影響により前同比2.5%減となった。
- ✓ 一方、飼料添加物等は順調に推移し前同比21.8%増となった。
- ✓ 2027年3月期通期においては、飼料添加物等および動物用医薬品の伸長を見込む。

※ コンパニオンアニマル

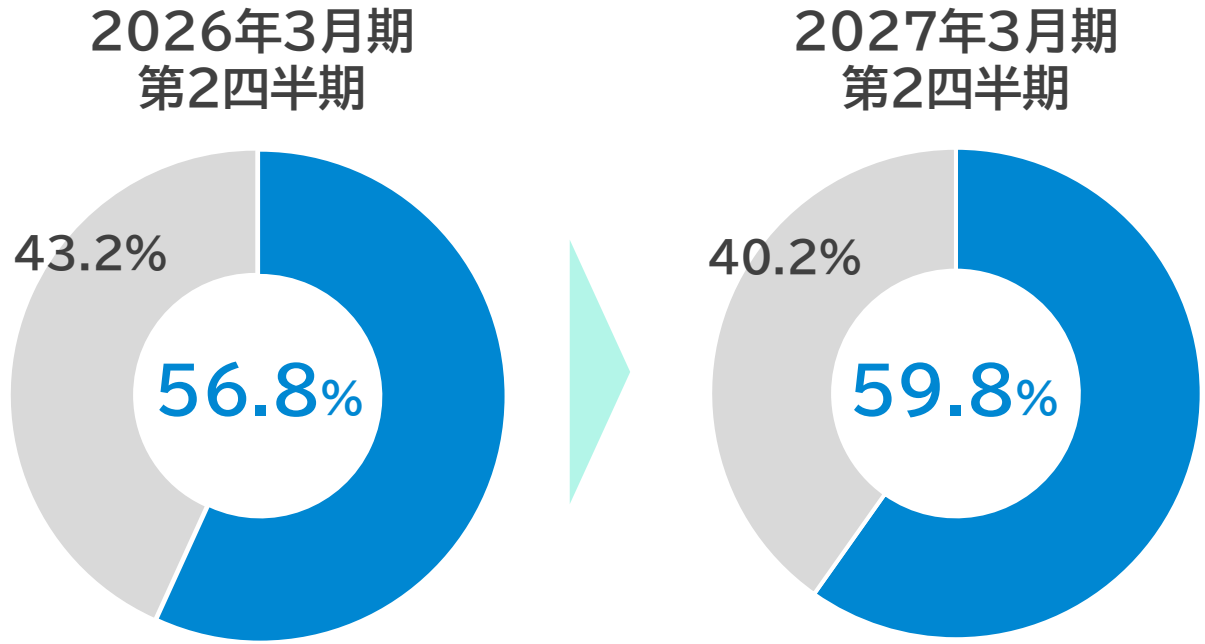
領域別売上高比率と先発品・GE品売上高比率

領域別売上高比率
（2027年3月期 第2四半期）



小数点以下第2位を四捨五入しているため合計しても100にならない場合があります

先発品・GE品売上高比率

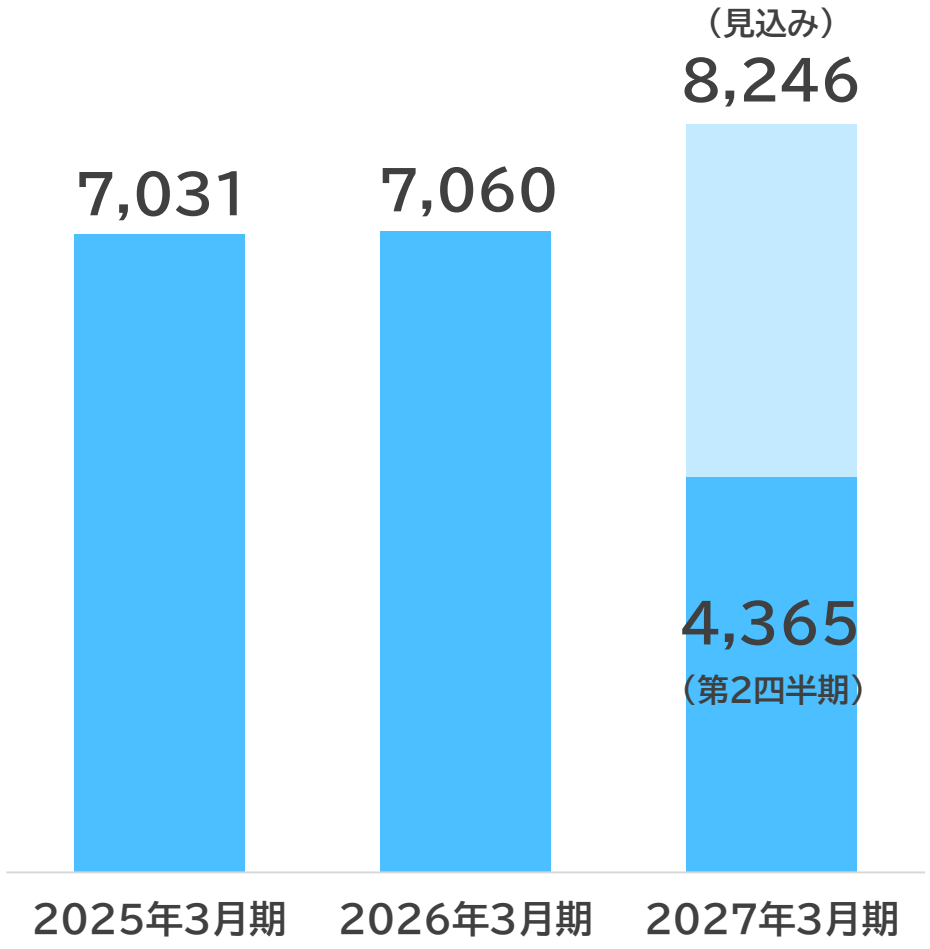


スリンダ、リフキシマ、チラーヂン、レルミナ等の伸長により、先発品比率は3.0ポイント増加

研究開発の状況

研究開発費推移

単位:百万円



2026年11月4日時点

開発番号（一般名）／領域・効能	状況
AKP-022（レルゴリクス配合剤） 子宮筋腫	PhIII実施中
AKP-022（レルゴリクス配合剤） 子宮内膜症	PhIII実施中
LPRI-CF113（ドロスピレノン） 月経困難症	PhIII実施中
AKP-SMD106（治療用アプリ※1） 月経前症候群・月経前不快気分障害（PMS・PMDD）	特定臨床研究※2 実施中
AKP-009（ルダテロン酢酸エステル） 多内分泌代謝性卵巣症候群（PMOS）	開発準備中
MCN-009（治療用アプリ※1） 過敏性腸症候群（IBS）	検証的治験※3 実施中
AKP-009（ルダテロン酢酸エステル） 前立腺肥大症	PhII実施中
AKP-021（mPGES-1阻害剤）	PhI実施中
AKP-017（テストステロン経鼻剤）	開発準備中

※1 薬事上の一般的名称は新設予定のため未定
※2 医療用医薬品PhII相当、サスメド（株）との共同開発
※3 医療用医薬品PhIII相当、（株）MICINとの共同開発